

自治労中央機関紙

発行所  
全日本自治団体労働組合  
東京都千代田区六番町1  
TEL 03-3263-0273  
FAX 03-5210-7422  
定価一部30円1年間900円  
(組合員の購読料は  
組合費の中に含む)

主な記事



# 女性部特集号

# じちろ



## 2023春闘勝利！ 65歳まで働き続けるための 要求をつくろう！！

### ～職場の課題をもとに要求・交渉を～

いよいよ定年年齢の引き上げが迫る中、2022年度生休・年休アンケートで、定年まで働き続けられないと回答した人が過半数を超えました。自治労は、春闘を「1年のたたかひのスタート」として、年間の闘争サイクルを確立するための重要なたたかひであると位置づけ、取り組みを強化してきました。

女性部でも、アンケート等を通して、職場を点検し、みんなで集まり、学習や交流を通じて、「健康で安心してはたらき続けられる職場づくり」のために要求・交渉に取り組みましょ。

### 定年引き上げで「働き続けられない」が過半数超え

人員削減が押し進められてきた職場で、コロナによりさらに業務が増加し、私たちは不満を口にするにさえないくらい疲弊しています。長時間労働で休みもとれない職場があたり前になっていく中で、これ以上働き続けられないと定年前に退職する仲間も多くの職場で見られます。さらに、2023年度から定年年齢が段階的に引き上げられることから、2022年度生休・年休アンケートでは、自身の体力・能力への不安(48%)や働き方への不安(32%)を感じ、定年まで働き続けられないと回答した組合員が過半数を超えました。

病院職場では看護師の夜勤回数など、60歳を超えてこれまでも同じようにできるのか不安だ、また、保育所・幼稚園職場などからも同じように子どもたちと向きあえる体力があるか不安だという声が出されています。

それに加えて、これまでの賃金水準の7割で、これまでと同じように働くという事は、定年引き上げを理由にした賃金の引き下げと同じことではないでしょうか。今こそ、女性部がこれまでスローガンにしてきた「定年まで差別されることなく安心して働き続けられる職場・社会をつくろう」に立ち返り、健康で働き続けられる職場を作っていく必要があります。

2022年度生休・年休アンケートでは、健康で働き続けるために何かが必要かとの問いに対して「人間関係」「定時に来て定時に帰れる職場環境」「権利行使のしやすさ」の順になっていますが、良好な人間関係の源は、やはり話すことができる職場であり、お互いが助け合えるゆとりのある職場が必要です。

声を集めた「ウェブを活用したことで、今まで参加できなかった組合員が参加できるようになった」といった取り組みを進め、運動の前進が図られた単組や県本部が増えてきました。中央大交流集会や労働学校などに参加した仲間からは、「顔を合わせて話すことで相談がしやすかった」「対面で話ができ良かった」といった声も出されています。

### 仲間の声を根拠に、女性自身が行動を

コロナ禍でも、「少人数で集まって話す場をつくった」「アンケートで仲間の

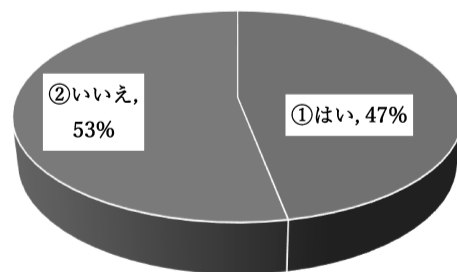
ウェブを活用し様々な学習や取組を共有しながら、身近なところで顔を合わせ話をする場をつくるなど、状況や目的に応じて使い分け、仲間の声をどう聴くか、集めるか、その声をつなげるか、話し合っていくましょ。

1月から3月は、女性の働く権利確立運動強化月間です。まずは「生休・年休アンケート」等を使って、自分の働き方や生活実態を点検ましょ。そこから見えてきた課題を、仲間との話し合いの中から原因と改善策を見つけ、要求につなげ

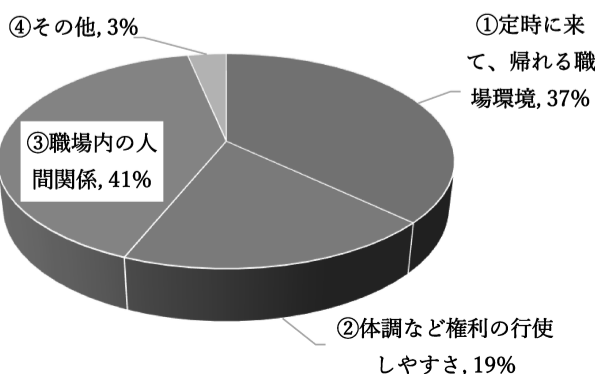
ます。交渉では、自分や仲間の具体的な実態を当局に伝えることで、前進を目指します。1回の交渉で前進することはほとんどありません。役員が交代しても、何年も訴え続けてようやく勝ち取れる、というのが大半です。また、自分自身が定時に

いくつかの単組で産前休暇の拡大や子の看護休暇や家族看護休暇の拡充、不妊治療休暇の拡充、人員確保などを勝ち取っています。先進事例を作り、追いつけ、追い越せの統一闘争で、広切にし、女性が「働き続けられた」といえる職場を作っていくましょ。

定年(延長含む)まで働きたいか



健康で働きつづけるために、何が必要か



### 当面の日程

- 1月16日(月) 拡大女性部長会議
- 3月3日(金)～5日(日) 座長・教宣担当・音楽活動家養成講座
- 3月8日(水) 国際女性デー自治労参加者集会・連合中央集会
- 5月2日(火)～3日(水) 青年女性憲法フォーラム
- 5月27日(土)～28日(日) 自治労はたらく女性の集会60回記念集会